

第 43 回世論調査

「富士市に住んで私はこう思う」

～第五次富士市総合計画に係る市民意識調査～・

「富士市の公共施設」

について

報 告 書

平成 26 年度

富士市総務部広報広聴課

目 次

I	調査の概要	3
II	調査対象者の属性	9
III	質問と単純集計結果	17
IV	調査結果	29
	「富士市に住んで私はこう思う～第五次富士市総合計画～」	29
	（1）安全で暮らしやすいまちについて	29
	（2）健やかに安心して暮らせるまちについて	45
	（3）産業が交流するにぎわいのまちについて	61
	（4）人と自然が共生し環境負荷の少ないまちについて	81
	（5）魅力ある教育を実現するまちについて	97
	（6）人にやさしい便利で快適なまちについて	113
	（7）市民と創る新たなまちについて	125
	「富士市の公共施設に関するアンケート」	145
	（1）市の公共施設の利用状況について	145
	（2）今後の公共施設のあり方について	187
	（3）市の公共施設の今後の必要性について	189
	（4）市の公共施設のサービスを継続的に行うために必要な方策について	223
V	自由意見	239
	問 30 富士市に住んで思うこと	239
VI	結果の数表	327
VII	年度別テーマ	427
	付録 調査票	

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、富士市の「富士市に住んで私はこう思う～第五次富士市総合計画に係る市民意識調査～」及び「富士市の公共施設」について、市民の意識・評価・要望などを把握することを目的とした。

2 調査の内容

富士市の「富士市に住んで私はこう思う～第五次富士市総合計画に係る市民意識調査～」及び「富士市の公共施設」について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 富士市全域
- (2) 調査対象 富士市在住の満 20 歳以上 80 歳未満の男女
- (3) 標本数 3,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送調査
- (6) 調査期間 平成 26 年 6 月 13 日～7 月 1 日
- (7) 調査機関 株式会社トムス

4 回収結果

- (1) 発送数 3,000 人 (100.0%)
- (2) 回収数 1,622 人 (54.1%)
- (3) 有効回収数 1,622 人 (54.1%)

※有効回収数は、回収したが記入のない（または少ない）調査票を除いて集計した数。

5 地区別回収率

居住地区	発送数（人）	有効回収数（人）	回収率（％）
吉原	145	74	51.0
伝法	158	102	64.6
今泉	150	89	59.3
神戸	49	23	46.9
広見	168	69	41.1
青葉台	87	35	40.2
大淵	140	91	65.0
富士見台	83	42	50.6
原田	81	49	60.5
吉永	90	46	51.1
吉永北	34	18	52.9
須津	155	88	56.8
浮島	18	9	50.0
元吉原	101	51	50.5
富士駅北	119	58	48.7
富士北	91	66	72.5
富士駅南	125	68	54.4
田子浦	192	88	45.8
富士南	198	116	58.6
岩松	111	55	49.5
岩松北	120	42	35.0
鷹岡	151	85	56.3
丘	160	61	38.1
天間	81	39	48.1
富士川	107	71	66.4
松野	85	45	52.9
その他	1	0	0.0
わからない	-	10	-
無回答	-	32	-
合計	3,000	1,622	54.1

報告書を読む際の注意事項

- 1 比率はすべて百分比であらわし、小数点以下第2位を四捨五入している。このため百分比の合計が100%にならないことがある。
- 2 基数となるべき調査数は、Nまたは調査数と表示しており、回答比率はこれを100%として算出した。
- 3 質問の終わりに(M. A.)とあるのは、一人の対象者が2つ以上の回答をしてもよい設問であり、その百分比の合計は100%を超える場合がある。
(M. A. =Multiple Answerの略)

- 4 分析の軸として用いたライフステージは、次のように分類している。

独身期	20～30代の未婚者
家族形成期	第一子が未就学児、または40歳未満の夫妻のみ
家族成長前期	第一子が小・中学生
家族成長後期	第一子が高校・大学生 (大学生・短大生・専門学校生・浪人生を含む)
家族成熟期	第一子が学校教育終了
老齢期	60歳以上の人

※ 家族形成期～家族成熟期の子どもがいる人は、いずれも60歳未満の人とした。40代・50代の未婚者、40代・50代の夫妻のみなど、分類されていない層がある。

I 調査の概要

5 この調査は、等間隔抽出法により対象者を抽出したので、標本誤差は次式で近似できる。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答者総数（1,622人）を100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が50%であるとすると、母集団（20歳以上の富士市民全体）の回答比率は47.5%～52.5%の間であると推定される。

回答比率	標本誤差
50%	±2.5%
60%または40%	±2.4%
70%または30%	±2.3%
80%または20%	±2.0%
90%または10%	±1.5%